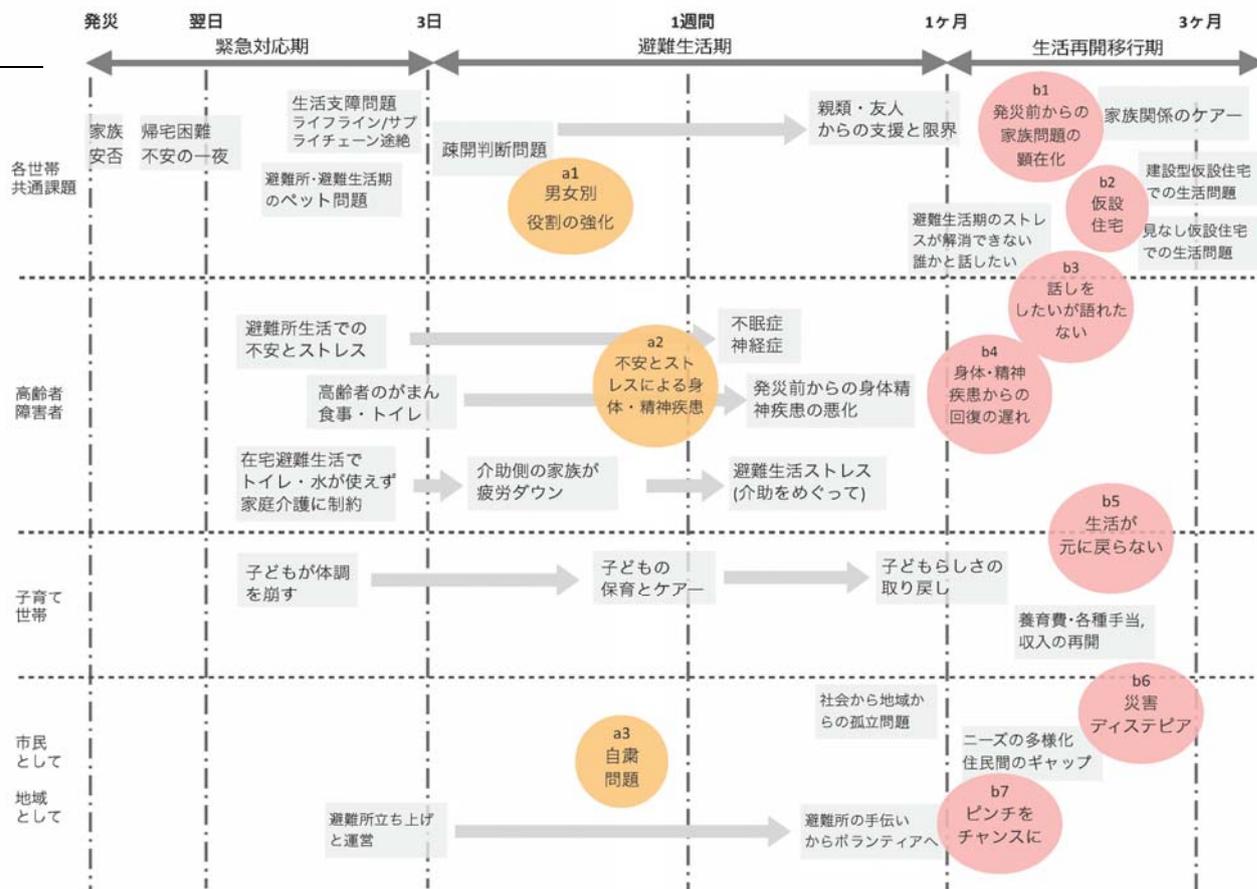


資料

2 センター運営委員会でのワークショップ

センター運営委員会では、ワークショップを計3回行った。ロールモデルを仮想し、起こりうる悩み事、対応策を話し合った。

1 回目



2 回目

調布市男女共同参画推進センター WS (第4回) の成果

家族設定ロール	3日後の不安や課題	1ヶ月後の不安や課題
【Aさん：子育て中の母親(42歳)】 ・本人(42), 夫(46), 長女(5), 長男(4) ●本人は軽いつつ状態/夫は単身赴任 ●子ども2人は近所の幼稚園/幼稚園の母親とは話す程度	◎うつ状態出てくる。どうなっていくのか心配。状況により薬がないかも ◎級友の母と話すことでストレスを開放していたが、それが崩れる ◎子供が非常食を食べない、トイレに行きたがらない ◎夫や子供にあたってしまう。夫には電話 ◎避難所でうまくいかず疲れてくるうつ状態さらに悪化	◎うつが重症化/カウンセリングなどケアが必要 ◎子供は幼稚園再開せず避難所でぐずりがち。お薬たべている ◎夫は四国といったり来たり、頼りたいけど頼りきれない ◎夫は帰ってきて子供の面倒をよくみている、家の片付けもしている ◎夫に対して「私だけどうして?!!」という不安や不満→仲悪くなる
【Bさん：家族介護をしている女性(59歳)】 ・本人(49), 母親(79歳) ●女性本人は健康(民間企業に勤務), 母親は要介護1 ●自分と同世代は結婚などで疎遠/近隣住民とは、朝夕の挨拶程度 ●母はヘルパー、デイサービス、配食サービスを受けている	◎仕事は休んで母の介護つきっきり ◎会社と家の往復だったので急に地域の人と近くなり、ストレスも。 ◎避難所では生活しにくく自宅に戻ってきた ◎近所に相談できる人がいない/どこに行けばいいのかわからない。孤独でどうしていいかわからない ◎薬がきかれて母が苦しんでいる/病院は再開していない ◎職場にいつか行くか/行くと帰れない/母の介護をどうするか	◎担当医が変わり母はコミュニケーションがとれない ◎母とはもともと気のあわないところがあって関わりが深いこの時期がつらい。 ◎母の症状・介護度アップ/サービスをもっと受けたい/一時施設入所を利用したい/施設に入りたい母 ◎ (家が壊れた場合) 仮設住宅では不自由、在宅ケアでは立ち行かなくなる ◎職場の理解が得られるか得られないかで状況が変わる ◎本人が孤立状態/相談、ストレス、不安、これからのこと... ◎相談できるところには行くが、まわりの状況によりどうなるかわからない
【Cさん：DV被害経験のある女性(29歳)】 ・本人(29), 長女(3) ●保育園に勤務/身体的には健康だが人間関係が苦手 ●DV夫とは別居中/他市から避難して調布に。 ●近隣とはごみを出すときに挨拶する程度	◎避難所で3才の子が泣きわめき周りに迷惑をかけているのが重荷。 ◎希望や欲しいものを伝えられない/他人に助けを素直に求められない ◎避難所で男性と接することへのストレス ◎保育園の復旧見込みを知りたい。	◎夫に居場所を知られてしまうこと、夫が子供を探しに来ないの不安 ◎知り合いがおらず誰に相談していいのかわからない/孤立感が増大 ◎お金に関する不安が出てくる/生活費、収入の心配 ◎保育園の仕事が続けられなければ生活をできない/勤務したいが子供を預ける所が心配/保育園が確保できるのか? ◎仮設住宅に入ることができるのか不安/新規に住む家をどのように確保するか一人で決める必要あり
【Dさん：精神DVあり男性(64歳)】 ・本人(64), 妻(59) ●職場を退職し現在は家で/妻は専業主婦で地域ボランティア/子どもは独立 ●過去に妻に対し、精神的なDVをしていた。今は妻から無視されている ●近隣との付き合いなし	[夫] 自分で食事を作ることができず、イライラ/テレビもなし [夫] 妻から無視され話し相手ほしい/関係が最悪で仲裁役がほしい [夫] 家から出ない、妻は外に、無視される、外部との接触がない [妻] 日頃無視しているのに、被災して無視したくても出来ない。 [妻] イヤでもお互いにコミュニケーションをとらなければならない事が生じる。 [妻] 夫にかまわず、自分ができることをする [妻] 夫は夫、私は私と思う妻に無視されている⇒心がまぎれない、ますます不仲に。	[夫] 地域との関わりがなかったために何をしたらよいかかわからない [夫] 孤立感でいっぱい。奥さんにボランティア活動に行く時誘ってほしい [妻] 夫を地域ボランティアに引き込む/夫に役割を与えることにより夫婦関係が修復ができるかも [妻] もうイヤ! この大変さが終わったら別れたい/夫の事などにかまっていられない同居人として生活を続けるしかない [妻] 夫からの身体的暴力が始まった [夫] 子供からの電話しつづりがりがない/子が様子を見に時々たずねてくれる [夫] 家のことを手伝いたい料理もしたい、が何をしたらよいかかわからない [妻] 1ヶ月、顔をつきあわせてよい所も見えてきた。もう一度二人で頑張ろう。

3 回 目

第1回、2回のワークショップから、第3回ではセンターについて改めて、各事象について予測できること、それに対応してできること、平常時の取組について話し合いを行った。

【発災～3日で発生する事象】

	センター各居室・スペースの活用	学校避難所とセンターの連携	在宅避難生活におけるニーズ
予測できること	<ul style="list-style-type: none"> ●あくろすは駅から近いので、帰宅困難者や近隣の市民からの要望が多く寄せられる。 ●DV被害者が安全な居場所を求めてくる可能性がある。 ●治安の悪化、特に女性への性暴力が心配 ●トイレの問題 ●通院・旅行客ほか住民以外の居場所に困った人が、情報を求めてくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの夜泣きなどがあると周りに気遣い、女性や子どもが安心して過ごせない。 ●トイレ周辺の安全が確保されるか ●授乳や着替えなどのプライベートスペースが十分に確保されない。 ●平等な支援を前提とした避難所では、困っていることを個々に言い出せない 	<ul style="list-style-type: none"> ●育児・介護に関わる悩み・困りごとを相談できる場所がほしい ●女性用品がどこにあるのか等の情報の不足 ●個々に家庭状況、被災状況も異なるのでニーズ把握が難しい。
どう対応すべきか	<ul style="list-style-type: none"> ●現在、あくろすは避難所に指定されていないが、DV被害者等居場所に困っている人のための一時滞在スペースが必要 ●混乱している状況でも、市が保有する情報をできる限り正確に適宜提供する ●女性への性暴力の相談があった場合の対応 ●だれでもトイレ(水洗トイレが通常通り使えれば)の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所を回って声をかける＝女性特有のニーズの把握 ●希望する女性のための女性専用スペースの確保 ●災害対策本部に女性のニーズを伝える。 ●女性の茶話会を開いて、話しやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●女性のための相談窓口の設置(巡回、来所)、御用聞き ●正しい情報、求められている情報を的確に提供
マニュアルで対応できないか	<ul style="list-style-type: none"> ●あくろすが24時間使えるスペースとなれば、市として非常時にスペースをどのように使えるか、現在のBCPとあわせて検討する。その結果を内部のマニュアルとしてスタッフに周知できるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ニーズの聞き取りは、女性や子どもだけなどを集めて行うということを避難所マニュアルに明記する必要があるのではないか。 ●避難所リーダーとして女性を配置する等を記載することが必要ではないか。 	
平常時の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●センターは市の災害対策についての最新情報を常に把握しておく必要がある ●女性への性暴力の相談があった場合の対応を平常時からスタッフが情報共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所運営について、女性の視点から配慮しておきたい指針をリーフレットにまとめ、全戸配布する。関係団体・職員にも周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者と職員の顔と顔がつながる関係づくりに努める。 ●市民活動支援センターとの連携強化 ●相談窓口の周知(各家庭での問題に寄り添う)
提案	<ul style="list-style-type: none"> ●女性の視点で考えた避難所運営や日頃の備えに関するリーフレットの作成 ●男女共同参画推進センターの役割を明確にし、平常時から周知 ●女性の視点を入れる、女性の意見を反映させるなどの文言だけでなく、具体的な数値目標を明記(避難所のリーダーの3割は女性を配置するなど)することが実現性を高める上で必要 		

【発災3日後～1ヶ月で発生する事象】

	家事負担の女性への偏り是正	市民による支え合い	女性・子どもへの暴力防止
予測できること	<ul style="list-style-type: none"> ●非常時の混乱の中では、性別役割分担が強化されてしまう状況は避けられない。 ●平常時から育児、介護負担が女性に偏っていることから、非常時にはより集中しがちとなる。 ●災害が発生して間もない時期なので、やれる人がやっているだろう。 ●男性に偏りがちな重労働も取り上げる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●近所、知り合いなどでの助け合い ●市民グループの活動は難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ●DV被害で身を隠している人は、配偶者と遭遇してしまうかもしれないので、避難所へ行くことができないのではないかな。 ●DV被害者が安全な居場所を求めてくる可能性がある。 ●治安の悪化、特に若い女性への性暴力が心配 ●停電、街灯損壊状態に女性が不安を感じる ●さまざまな不安を抱えて、暴力が発生しやすい状況になる可能性はある。 ●男女共同参画推進センターとして直接的なことはできない ●避難所の掲示板などに、相談できる施設があることを貼りだすことは可能 ●アルコール依存症などの家族がいる場合も考えられる。
どう対応すべきか	<ul style="list-style-type: none"> ●男性も女性も協力してやると楽になることを考える＝公平な作業分担、協力体制 ●落ち着いたら、井戸端トークのような気軽に話せる場を作る ●災害が起きてから偏りを修正しようとしても無理。日常での働きかけが必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所を回って声をかける＝女性特有のニーズの把握 ●希望する女性のための女性専用スペースの確保 ●災害対策本部に女性のニーズを伝える。 ●女性の茶話会を開いて、話しやすい雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●平常時から、地域リーダーが性犯罪やDVについての正確な知識や情報を理解しておくことが、災害後の暴力防止に役立つ。 ●非常時のDV被害者の一時保護施設の確保を考える ●できるだけ迅速な相談事業の再開を目指す。
マニュアルで対応できないか	<ul style="list-style-type: none"> ●分担が性別で偏らないようにすること、避難所運営に必ず女性を入れることなどをマニュアルに入れておく必要はある ●ないよりはあった方がいいが、現場では、いちいちマニュアルを見てられない ●日常的に個人の意識の中に浸透させておかないといけない 		<ul style="list-style-type: none"> ●避難所マニュアルに、暴力未然防止のためにトイレの周辺などを明るくすることや、夜間の見回りなどの対策を明記
平常時の取組	<ul style="list-style-type: none"> ●男性の料理、家事教室などの講座を開催するなどの啓発活動が必要 ●講座、講演会、広報などの啓発活動が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●物の貸し借りができる、顔と顔が見える関係づくりにつながるイベントを開催 ●センターの活動に協力してくれる人材とつながる ●あらゆる意思決定の場に女性の参画を働きかける ●地域で参加しやすい避難訓練を実施 ●女性リーダーを育成する取組が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●出前講座を充実させ、暴力の被害者にも加害者にもならないための予防講座を積極的に開催 ●相談事業を迅速に再開するための対策を検討 ●非常時の混乱に紛れて、性暴力が起こりうるなど注意事項を配布するなどさまざまな手段で事前に広く知らせることが重要 ●平常時に男女共同参画推進センターの活動が知られていないと、災害時に頼れる存在にはなれない
提案	<ul style="list-style-type: none"> ●男女共同参画推進センターという固い名前が周知を阻んでいる可能性もある ●親しみやすい名前、愛称を持つとよいのではないかな 		

3 男女共同参画推進センターの開催の記録

開催日時		内容	
平成二十六年 度	第1回	平成26年8月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・委員委嘱, 委員長・副委員長選出 ・開催スケジュールについて ・総合防災安全課出前講座「みんなで進める災害対策」 ・講演「首都直下型地震が起きたら～調布はどうなる？」 講師：市古委員長
	第2回	9月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会「男女共同参画推進センターの役割」 講師：内藤和美氏（芝浦工業大学男女共同参画推進室 特任教授） ・意見交換「男女共同参画の視点から首都直下型地震を考える～3.11を振り返って」
	第3回	11月20日	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「首都直下型地震に備えて多様な視点で考える地域防災～男女共同参画推進センターができること」 ・平成26年度事業実施状況（報告）
	第4回	平成27年1月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ「避難生活期と生活再開移行期に絞って」 ・ワークショップを終えて～意見交換
平成二十七 年度	第1回	6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言の方向性について ・テーブルトーク～防災視点で改めてセンターについて考える ・男女共同参画推進フォーラムしえいくはんず2015での展示について
	第2回	10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言（原案）の検討
	第3回	12月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言（素案）の検討
	第4回	平成28年2月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・提言（修正案）の検討 ・提言提出について

4 男女共同参画推進センター運営委員名簿

(敬称略)

委員長	市古 太郎	首都大学東京大学院・都市システム科学域 准教授
副委員長	熊崎 清子	調布地域女性史編纂委員会委員長
	宇治 和子	こくりょう・みんなの広場（国領小学校地区協議会）代表
	小宮 庸子	保健師
	小森 美奈子	ピュアハート会員, 防災楽団会員, 男女共同参画推進フォーラムしえいくはんず2015実行委員会委員長
	菅野 武利	市民プラザあくろす事務所長（指定管理者：株式会社セイウン）
	角 杉信	パパネット会員
	高橋 仁人	メッセージI副代表
	田村 昇	調布市立小中学校校長会会長, 調布市立神代中学校校長
	仁藤 美保	調布市生活文化スポーツ部男女共同参画推進課長（平成27年4月1日から）
	岩井 涼悦	調布市生活文化スポーツ部男女共同参画推進課長（平成27年3月31日まで）
	二宮 陽子	アステル会員, 男女共同参画推進フォーラムしえいくはんず2014実行委員会委員長 （平成27年3月31日まで）
	内藤 敬子	男女共同参画推進指導員（平成27年12月31日まで）